

# 十 全 會 雜 誌

第三十九卷 第三號 (第三百四十二號)

昭和九年三月一日發行

原 著

金澤醫科大學皮膚科泌尿器科學教室

(主任伊藤教授)

## 既往20年間ニ於ケル主要皮膚疾患ト 季節トノ統計的觀察

澤 田 弘 夫

(昭和8年9月9日受附)

### 目 次

- |                       |                |
|-----------------------|----------------|
| I 緒 言                 | V 北陸地方ノ氣候ト皮膚疾患 |
| II 新來患者總數ノ各月別並ニ四季別的觀察 | VI 結 論         |
| III 各皮膚疾患ノ月別並ニ四季別的觀察  | 文 獻            |
| IV 各皮膚疾患ト季節トノ總括的觀察    |                |

### I 緒 言

各種皮膚疾患ハ、其ノ發生、並ニ經過ニ於テ、季節的影響ヲ享クルハ、既ニ諸家ノ統計的研究ニ依リ明カナリ。而シテ其ノ季節的變動ニ關シテハ、内外兩因ノ與ル所甚ダ大ナリ。即チ外因トシテハ、四季ノ氣溫、濕度、並ニ紫外線量ヲ舉ゲ、内因トシテハ、人間ノ習慣性、並ニ榮養ヲ舉ゲ得。又皮膚ノ素質ニ季節的變動アリテ、一定季節ニ於テハ、皮膚病ニ對スル感受性最モ高マルコトモ認メザルベカラズ。最近 Stern ハ光線ノ分量、天候、空氣ノ性質ガ皮膚疾患ノ發現ニ關係アリトシ、天候デハ氣壓、風、空氣デハ其ノ純、不純度、含有スル細菌、花粉、塵埃、煤、並ニ「イオン」含有度ガ關與シ、尙日光紫外線ノ過不足ハ、疾病ヲ再發、若シクハ増悪セシムルモノナリト見做セリ。Bettmann ハ、氣候ノ變化ニ因リ、大氣ノ成分ガ變ジ、皮膚毛細血管ニ變化ヲ及ボス爲メナリトセリ。Hagen ハ、夏季ハ毛細血管擴張シ、血流速カナルモ、冬季ハ血管縮小シ、血流遲シト云ヒ、斯ルコトガ皮膚疾患ニ關係スルナラント述ベタリ。次ニ食餌の關係ニ於テハ、夏ニ比較シ春夏秋冬ノ食餌ハ、「ヴィタミン」含有量少ク、其ノ他、季節ノ變動ニ伴ヒ變化スル榮養ガ皮膚疾患ノ發生、並ニ經過ニ及ボス影

響ノ大ナルコトモ明カナリ。即チ Luithlen ハ綠食餌動物即チ夏季食餌動物ハ、冬季食餌動物ヨリモ、皮膚刺戟ノ少キコトヲ實驗的ニ證セリ。先頃 Mayer u. Sulzberger ニ依リ皮膚ノ感受性ハ、榮養ニ依リ差アルコトガ知ラレタリ。即チ兩氏ハ海猴ヲ用ヒ、「サルバルサン」ト Ursol ニ對スル皮膚ノ感受性ヲ試ミタルガ、其ノ結果冬季ニ於テ75%、夏季ニ於テハ、12%陽性ナリキ。又皮膚ノ礦物新陳代謝ニ影響サル、所モ大ナリト言ハレ、其ノ他、植物性神經系ノ刺戟ニ因ル内分泌ノ亢進、並ニ電解質新陳代謝ノ皮膚疾患ニ關與スル所アルハ、Kraus u. S. G. Zondek ニ依リ知ラレタリ。尙一般ニ皮膚疾患ハ、其ノ原因ノ明カナルモノト、不明ナルモノトニ分チ得ルガ、後者ニハ季節的影響ノ關與スル所甚ダ大ナリト信ズ。

余ハ今回大正2年ヨリ昭和7年ニ至ル滿20ケ年間ニ、我が金澤醫科大學皮膚科泌尿器科外來ヲ訪レタル新來患者ニ就キ、先天的疾患、並ニ皮膚腫瘍、慢性傳染性皮膚病(黴毒、結核、癩ノ如キ)、外傷性疾患(火傷、凍傷ノ如キ)、及ビ稀有症ニ屬シ統計的價値少キモノト思ハル、疾患ヲ除キ、其ノ他ノモノ、中ヨリ主要ト認ムベキ31皮膚疾患ヲ選ビ、各月別、並ニ四季別ニ統計的ニ調査シ、特ニ北陸地方ノ氣象ト皮膚疾患トニ關シ、聊カ興味アル結果ヲ得タルヲ以テ、茲ニ報告セントス。

即チ余ハ、既往20年間ノ外來患者經過録、並ニ姓名簿中ヨリ31皮膚疾患ヲ各月別、並ニ四季別ニ抽出シ、各疾患ニ就キ、其ノ百分率ヲ求メタリ。尙經過録ヲ觀ルニ、往々記載事項頗ル簡單ニシテ、疾患ノ形狀、部位等ヲ明記セザルモノ多少アリテ、之ガ爲メ、各症例ニ算入ヲ除外セシモノモ少シクアル故、各疾患ノ實際數ハ、尙以上ナラント思ハル。又一般ニ慢性皮膚症ハ、患者自身ニ氣付クモ、自覺症狀ヲ缺キ、或ハ其ノ症狀甚ダシカラザル時、若シクハ顔面、其ノ他、露出部等ノ美容的ニ關係アル部位以外ニ發生セシ時ハ、直チニ診ヲ乞フ者甚ダ尠ク、概シテ之ヲ放置スル傾向アリ。而シテ症狀増惡シ苦痛甚ダシキニ至ルニ及ビ、初メテ外來ヲ訪フモノニシテ、其ノ初診日ト初發時トノ間ニ、少ナカラザル間隔アルヲ認メザルベカラズ。

因ニ各疾患中、蕁麻疹ノ總數、並ニ各月別數ハ、當教室ノ先輩荻野友雄學士ヨリ譲リ受ケシモノニシテ、又濕疹統計ノ一部ハ、先輩故施山寅吉學士ノ調査ニ據ルモノナリ。茲ニ兩氏ニ對シ、衷心感謝シ已マザル次第ナリ。

## II 新來患者總數ノ各月別、並ニ四季別的觀察

既往20年間ニ於ケル新來患者46791名中、病名不詳ノモノヲ除ケバ、43544名ト成ル。今各月別患者數、並ニ其ノ百分率ヲ舉グレバ次ノ如シ。

月次	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	合計
患者數	4019	3040	4116	4152	4126	4108	3987	4101	3583	3069	2795	2448	43544
百分率	8.842	6.688	9.055	9.134	9.077	9.038	8.771	9.022	7.883	6.752	6.149	5.386	

之ニ依リ當外來ヲ訪フ新患者ハ、早春3月ヨリ初夏ノ候6月ニ亙リ最多ニシテ、冷氣加ハル10月ヨリ12月ニ亙リ次第二ニ減少スルコトヲ知り得。即チ4月ニ最高率(9.134%)ヲ示シ、12月ニ最低率(5.386%)ヲ示ス。尙之ヲ四季別ニ觀レバ、春夏冬秋ノ順ナリ。是レ春ヨリ夏ニ及ビ、發生若シクハ増悪スル皮膚疾患多ク、且一般ニ慢性皮膚症ハ、其ノ症狀溫熱ニ遭ヒ、顯著ト成ル爲メナラント思ハル。

### III 各皮膚疾患ノ月別、並ニ四季別的觀察

#### A. 癢痒性皮膚症

##### (1) 濕疹

濕疹ハ皮膚疾患中、其ノ數ニ於テ、首位ヲ占ムルモノニシテ、近來 Neisser, Jadassohn, Darier, Bloch, Moro, 土肥慶藏博士等ニ依リ一種ノ「アレルギー」性皮膚症ト見做サル、ニ至レリ。而シテ本症ノ發現、並ニ増悪ハ、日光光線ノ作用、氣溫、濕度、及ビ風向ノ變化ト關係アルモノナリ。一般ニ溫熱的作用ハ、局所ノ血管運動性反應ヲ高メ、濕疹ノ發生ヲ容易ナラシメ、更ニ又發汗モ濕疹ニ對スル刺戟ト成ルモノナリ。

其ノ各月別及ビ四季別症例數、並ニ總例數ニ對スル百分率ハ次ノ如シ。

月次	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	合計
症例數	839	662	977	1024	1095	941	744	710	664	735	690	657	9738
百分率	8.390	6.620	9.770	10.240	10.950	9.410	7.440	7.100	6.640	7.350	6.900	6.570	

即チ5月ニ最高率(10.950%)ヲ示シ、4月之ニ次ギ(10.240%)、12月ニ最低率(6.570%)ヲ示ス。四季別ニハ春夏冬秋ノ順ナリ。

Memmesheimerノ統計ニ於テハ、春ハ濕疹ヲ増悪スト言ヒ、3、4月頃濕疹患者數最高ニ達シ、其ノ後徐々ニ減ジ、9月ニ最低ト成リ、再ビ徐々ニ増加スルヲ認メタリ。春季ニ濕疹ノ多キ理由トシテハ、(1)天候ガ重大ナル關係ヲ有シ、空氣ノ乾燥セルコト、氣壓ノ低キコト、風ノ多キコト、及ビ日光照射量ノ急ニ増加スルコト等ヲ舉ゲ、又(2)冬季ニ比シ、俄カニ屋外ニ在ル時間ガ長クナリ、從ツテ塵埃、花粉、細菌等ノ刺戟ヲ受ケ易ク成ルコト、(3)榮養、食餌ノ急激ノ變化、就中冬期間「ヴィタミン」ノ供給不足ノ結果ニ因ル皮膚ノ抵抗力減退ヲ舉ゲテ居ル。而シテ我が金澤地方ニ於テハ、1月ヨリ2月ニ亙リ氣溫低下セルガ、3月ヲ經テ4月ニ至レバ急激ニ上昇シ、日光紫外線量モ急速ニ増加シ、從ツテ春季ニ濕疹患者モ激増スルモノナラント思ハル。

更ニ本症ヲ急性慢性ニ區別スレバ次ノ如シ。

##### (1) 急性濕疹

即チ5月ニ最高率(10.912%)ヲ示シ、2月ニ最低率(6.358%)ヲ示ス。四季別ニハ春夏冬秋ノ順ナリ。

月次	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	合計
症例数	729	578	889	910	992	820	650	642	591	642	621	594	8658
百分率	8.019	6.358	9.779	10.010	10.912	9.020	7.150	7.062	6.501	7.062	6.831	6.534	

## (ロ) 慢性濕疹

月次	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	合計
症例数	110	84	88	114	103	121	94	68	73	93	69	63	1080
百分率	10.120	7.728	8.096	10.488	9.476	11.132	8.648	6.256	6.716	8.556	6.348	5.796	

即チ6月ニ最高率(11.132%)ヲ示シ、12月ニ最低率(5.796%)ヲ示ス。四季別ニハ春夏冬秋ノ順ナリ。

## (2) 慢性單純性苔癬(ヴィダール氏苔癬)

本症ハ一種ノ神經性皮膚障碍ト見做サレ、屢々皮膚瘙癢症又ハ濕疹ヨリ繼發スルモノニシテ、慢性ニ經過スルモノナリ。

月次	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	合計
症例数	7	11	10	11	13	12	11	4	3	4	1	0	87
百分率	8.043	12.639	11.490	12.639	14.937	13.788	12.639	4.596	3.447	4.596	1.149	0	

即チ5月ニ最高率(14.937%)ヲ示シ、6月之ニ次ギ(13.788%)、12月ニ最低率(零)ヲ示ス。四季別ニハ春夏冬秋ノ順ナリ。從ツテ其ノ季節的消長ハ、濕疹ト略々同様ナリト思ハル。

## (3) 汗 疱

本症ハ甚ダシク發汗スル者ニ好發シ、多クハ春夏ノ候ニ増悪スルコトハ、夙ニ諸家(Kauffmann-Wolf, Alexander, Mitchel, Williams, 高橋, 楠田, 太田)ノ注目スル所ナリ。

月次	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	合計
症例数	20	20	21	27	40	63	74	51	34	22	8	10	390
百分率	5.120	5.120	5.376	6.912	10.240	16.128	18.944	13.056	8.704	5.632	2.048	2.560	

即チ7月ニ最高率(18.944%)ヲ示シ、11月ニ最低率(2.048%)ヲ示ス。四季別ニハ夏ニ發現率斷然多ク、約總數ノ半ヲ占メ、次イデ春夏秋冬ノ順ナリ。

藤井清二郎氏ハ、溫暖ナル4月ニ至レバ急ニ罹患者ヲ増シ、盛夏7,8月ニ最多ニシテ、11月ニ入り冷氣漸ク加ハルニ至レバ、自ラ患者數ヲ減ズルニ至ルベシト言ヘルガ、余ノ統計ニ

於テモ明カニ之ニ一致スルヲ認ム。

(4) 蕁麻疹

本症ハ皮膚ノ血管運動障礙ニシテ、最近 Bloch, Moog, Rost, 上林豊明氏等ハ、「アレルギー」性皮膚疾患ノト察スルニ至レリ。而シテ其ノ原因ニ依リ外因性蕁麻疹ト内因性蕁麻疹ノ2種ニ分タル。前者ハ(1)機械的刺戟、並ニ(2)溫熱及ビ寒冷(3)日光光線ノ化學線、後者ハ殊ニ消化器障礙ニ因リ發生スルコト多シ。(荻野學士調査)

月次	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	合計
症例數	51	23	24	85	67	44	87	52	45	39	20	24	561
百分率	9.088	4.098	4.276	15.147	11.939	7.840	15.503	9.266	8.019	6.949	3.564	4.296	

即チ7月ニ最高率(15.503%)ヲ示シ、4月之ニ次ギ(15.147%)、11月ニ最低率(3.564%)ヲ示ス。四季別ニハ夏春秋冬ノ順ナリ。而シテ其ノ季節的消長ハ、濕疹、汗疱ト略々同様ナルコトヲ知レリ。

(イ) 急性蕁麻疹

月次	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	合計
症例數	11	9	14	22	26	21	30	24	14	24	8	7	210
百分率	5.237	4.284	6.665	10.474	12.378	9.998	14.283	11.426	6.665	11.426	3.808	3.332	

即チ7月ニ最高率(14.283%)ヲ示シ、12月ニ最低率(3.332%)ヲ示ス。四季別ニハ夏春秋冬ノ順ナリ。

(ロ) 慢性蕁麻疹

月次	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	合計
症例數	22	7	4	36	22	12	30	13	8	10	7	13	184
百分率	11.954	3.803	2.173	19.562	11.954	6.520	16.302	7.064	4.347	5.434	3.803	7.064	

即チ4月ニ最高率(19.562%)ヲ示シ、7月之ニ次ギ(16.302%)、3月ニ最低率(2.173%)ヲ示ス。四季別ニハ春夏秋冬ノ順ナリ。

(5) 小兒蕁麻疹様苔癬

本症ハ幼兒ニ來ル癢痒性皮膚疾患ニシテ、季節ニ關係シテ消長スルモノナリ。殊ニ蚤、蚊ノ繁殖スル6—7月頃ニ至リ、病症ノ増悪スル者最モ多シトセラル。且消化器障礙モ與ツテ力アリト思ハル。

月次	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	合計
症例数	13	13	26	54	57	85	49	33	37	41	15	6	429
百分率	3.029	3.029	6.058	12.582	13.281	19.805	11.417	7.689	8.621	9.553	3.495	1.398	

即チ6月=最高率(19.805%)ヲ示シ、12月=最低率(1.398%)ヲ示ス。四季別ニハ夏春秋冬ノ順ナリ。

Haxthausen ハ、本症ノ大多數ハ7月ヨリ10月ニ亘リ發生スト言ヒ、Jacquet ハ、12月ニ罹病率最モ低シト言ヘリ。余ノ統計ニ於テハ、4月ヨリ7月ニ最モ多ク現ハル、ヲ見、最少ナルハ矢張り12月ナリ。

### (6) 痒疹

本症ハ少年期ニ初發シ、季節ニ關係シテ消長スル慢性癢痒性皮膚症ナリ。邦人ニ在リテハ、夏時ニ増悪シ、冬季ニ消退スルモノ多シトセラル。尙消化器障碍ニ因ル自家中毒ヲ説ク者モアリ。

月次	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	合計
症例数	9	9	15	16	9	30	24	32	13	15	12	14	198
百分率	4.545	4.545	7.575	8.080	4.545	15.150	12.120	16.160	6.565	7.575	6.060	7.070	

即チ8月=最高率(16.160%)ヲ示シ、1、2、5月=最低率(4.545%)ヲ示ス。四季別ニハ夏ニ甚ダ多ク首位ヲ占メ、冬ニ最少ニシテ、春秋ハ症例數相等シク、其ノ中間ニ位ス。

Hebra ハ、夏季ニ一時輕快シ、冬季ニ再發スルモノ多シト言ヒ、之ニ反シ、Brocq, Jacquet ハ、冬季ニ輕快スト言ヘリ。而シテ余ノ統計ニ於テハ、6、7、8ノ3ヶ月ニ患者數増加シ、1、2兩月ニ減少スルヲ見ル。即チ我が金澤地方ニ於テハ夏季痒疹多ク、冬季痒疹ノ少キコトヲ知レリ。

### (7) 皮膚癢痒症

本症ハ外因又ハ内因ニ依リ誘發セラル、疾患ニシテ、外因トシテハ、特ニ寒暖ノ急變ヲ擧ゲ、内因トシテハ、精神的作用ヲ擧ゲ得。

月次	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	合計
症例数	17	11	20	16	17	18	24	12	11	14	10	18	188
百分率	9.027	5.841	10.620	8.496	9.027	9.558	12.744	6.372	5.841	7.434	5.310	9.558	

即チ7月=最高率(12.744%)ヲ示シ、11月=最低率(5.310%)ヲ示ス。四季別ニハ夏春冬秋ノ順ナリ。

之ニ依リ見ルニ、我が金澤地方ニ於テハ、夏季蜜痒症ガ冬季蜜痒症ニ勝ル數ヲ示スヲ知ル。

(イ) 汎發性蜜痒症

月次	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	合計
症例數	9	6	6	4	8	7	10	7	6	6	6	9	84
百分率	10.710	7.140	7.140	4.765	9.520	8.330	11.900	8.330	7.140	7.140	7.140	10.710	

即チ7月ニ最高率(11.900%)ヲ示シ、12、1兩月之ニ次ギ(10.710%)、4月ニ最低率(4.765%)ヲ示ス。四季別ニハ夏冬ハ症例數相等シク、春秋モ同數ニシテ之ニ次グ。故ニ汎發性ノモノハ夏冬ノ徑庭少キコトヲ知レリ。

(ロ) 局所性蜜痒症

月次	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	合計
症例數	4	2	5	6	6	6	8	5	4	5	2	5	58
百分率	6.896	3.448	8.620	10.344	10.344	10.344	13.792	8.620	6.896	8.620	3.448	8.620	

即チ7月ニ最高率(13.792%)ヲ示シ、最低率ヲ示スハ、2月及ビ11月ナリ(3.448%)。四季別ニハ夏春ノ順ニシテ、秋冬ハ症例數相等シ。從ツテ局所性夏季蜜痒症ハ、冬季ノモノヨリモ、其ノ數ニ於テ勝ルヲ知り、此ノ點汎發性ノモノト異ル所ナリ。

(8) 尋常性乾癬

本症ハ歐米ニ比シ、我が國ニ於テ少キ慢性疾患トセラル。

月次	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	合計
症例數	17	9	13	14	10	16	16	6	16	16	7	6	146
百分率	11.628	6.156	8.892	9.576	6.840	10.944	10.944	4.104	10.944	10.944	4.788	4.104	

即チ1月ニ最高率(11.628%)ヲ示シ、8、12兩月ニ最低率(4.104%)ヲ示ス。四季別ニハ秋夏春冬ノ順ナリ。

Hoede ハ、本症ノ初發疹ハ9月ニ最高率ヲ示シ、1月ニ治テ乞フ者最多ナリト言ヒ、Makai ハ、本症ノ春季ニ比較的多ク増悪スル原因ハ、内分泌現象ニ因ルモノナリトセリ。尙 Riecke ハ、本症ハ完全ニ季節ト無關係ナルコトヲ強調シ、Haxthausen モ亦本症ハ1年ヲ通ジ、同様ニ發現スルモノナリトセリ。而シテ余ノ統計ニ於テモ、季節ニ因ル差ノ甚ダシカラザルヲ認メタリ。

(9) 紅色苔癬

本症ハ多少痒ヲ伴フ慢性皮膚症ニシテ、其ノ頻度ハ季節ニ關係シ多少變動スルモノトセラル。

月次	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	合計
症例數	0	6	4	3	1	2	2	2	2	2	4	2	30
百分率	0	19.998	13.332	9.999	3.333	6.666	6.666	6.666	6.666	6.666	13.332	6.662	

即チ2月ニ最高率(19.998%)ヲ示シ、1月ニ最低率(零)ヲ示ス。四季別ニハ夏ニ症例數最少ニシテ、春秋冬ニハ同數ナリ。

Pautrier ハ、1925<sup>26</sup>ノ冬ニ於テ、本患者ノ甚ダ増加セルヲ認メタルガ、余ノ統計ニ於テハ、季節的差ハ殆ンド認メ得ザリキ。

#### (イ) 尖圭紅色苔癬

月次	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	合計
症例數	0	3	2	2	1	2	0	0	2	0	1	1	14
百分率	0	21.426	14.284	14.284	7.142	14.284	0	0	14.284	0	7.142	7.142	

即チ2月ニ最高率(21.426%)ヲ示シ、1, 7, 8, 10ノ4ヶ月ニ最低率(零)ヲ示ス。四季別ニハ春夏秋冬夏ノ順ナリ。

#### (ロ) 扁平紅色苔癬

月次	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	合計
症例數	0	3	2	1	0	0	2	2	0	2	3	1	16
百分率	0	18.750	12.500	6.250	0	0	12.500	12.500	0	12.500	18.750	6.250	

即チ2, 11兩月ニ最高率(18.750%)ヲ示シ、1, 5, 6, 9ノ4ヶ月ニ最低率(零)ヲ示ス。四季別ニハ秋ニ最多、春ニ最少ニシテ、夏冬ハ症例數相等シク、其ノ中間ニ位ス。

### B. 季節的變動性皮膚症

#### (1) 紫斑病

本症ハ一種ノ出血性皮膚症ニシテ、從來一定季節即チ春秋ニ頻發スルモノトセラル。

月次	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	合計
症例數	7	5	6	7	9	13	6	12	10	7	12	4	98
百分率	7.140	5.100	6.120	7.140	9.180	13.260	6.120	12.240	10.200	7.140	12.240	4.080	



即チ6月ニ最高率(13.260%)ヲ示シ、8、11兩月之ニ次グ(12.240%)。而シテ最低率ヲ示スハ12月ナリ(4.080%)。四季別ニハ夏秋春冬ノ順ナリ。從ツテ季節的ニハ春ヨリモ却ツテ夏ニ頻發スルコトヲ知レリ。

(イ) 單純性紫斑

月次	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	合計
症例數	4	2	0	3	4	4	2	4	2	2	6	2	35
百分率	11.428	5.714	0	8.571	11.428	11.428	5.714	11.428	5.714	5.714	17.142	5.714	

即チ11月ニ最高率(17.142%)ヲ示シ、3月ニ最低率(零)ヲ示ス。四季別ニハ夏秋ニ最多ニシテ、冬之ニ次ギ、春ニ最少ナリ。

(ロ) 癩麻質性紫斑

月次	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	合計
症例數	2	2	5	4	5	6	2	5	6	3	5	2	47
百分率	4.254	4.254	10.635	8.508	10.635	12.762	4.254	10.635	12.762	6.381	10.635	4.254	

即チ6、9兩月ニ最高率(12.762%)ヲ示シ、12、1、2ノ3ヶ月ニ最低率(4.254%)ヲ示ス。四季別ニハ春秋ニ最多ニシテ、夏之ニ次ギ、冬ニ最少ナリ。

(ハ) 出血性紫斑

月次	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	合計
症例數	1	0	1	0	0	2	2	1	0	0	1	0	8
百分率	12.500	0	12.500	0	0	25.000	25.000	12.500	0	0	12.500	0	

即チ6、7兩月ニ最高率(25.000%)ヲ示シ、1、3、8、11ノ4ヶ月ヲ除クノ他ノ6ヶ月ニ最低率(零)ヲ示ス。四季別ニハ夏ニ最多ニシテ、春秋冬ハ症例數相等シク之ニ次グ。

(2) 帶狀疱疹

本症ハ屢々神經性症状ヲ伴ヒ來ル急性皮膚症ニシテ、從來一定季節即チ春秋ノ候ニ最も屢々見ラル、モノトシテ知ラレタリ。

月次	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	合計
症例數	17	7	16	9	15	14	17	16	9	19	13	8	160
百分率	10.625	4.375	10.000	5.625	9.375	8.750	10.625	10.000	5.625	11.875	8.125	5.000	

即チ10月ニ最高率(11.875%)ヲ示シ、2月ニ最低率(4.375%)ヲ示ス。四季別ニハ夏秋春冬ノ順ナリ。

Freund, Ustinovskij, ハ、本症ハ明カニ春秋ニ頻發スト言ヒ、Perutz ハ、4、6、9ノ3ヶ月ニ症例數最多ニシテ、8月ニ最少ナルコトヲ知レリ。然ルニ余ノ統計ニ於テハ、夏季ニモ症例數相當ニ多クシテ、春秋二季ニ甚ダシク偏セザルヲ見ル。

### (3) 多型滲出性紅斑

本症ハ一種ノ急性滲出性皮膚症ニシテ、春秋二季ニ多ク、夏冬ニ少シトセラレ、且一種ノ瘴氣性傳染病ナラント考ヘラル、モノナリ。

月次	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	合計
症例數	4	5	15	22	17	22	20	12	6	6	12	10	151
百分率	2.648	3.310	9.930	14.564	11.254	14.564	13.240	7.944	3.972	3.972	7.944	6.620	

即チ4、6兩月ニ最高率(14.564%)ヲ示シ、1月ニ最低率(2.648%)ヲ示ス。四季別ニハ春夏ニ最多ニシテ、秋之ニ次ギ、冬ニ最少ナリ。

Hebra ハ、春秋ニ頻發スト言ヒ、更ニ又、Heiderbergerklinik カラノ報告ニ依レバ、3月ヨリ5月ニ亙リ最多ニシテ、夏季ニ甚ダシク減少シ、更ニ9、10兩月ニ至レバ少シク増加スト。而シテ氏ハ、斯ル變動ノ原因ハ光作用ノ影響ニ依ルモノニシテ、且本症ハ相對濕度ノ比較的低キ時ニ頻發スト言ヘリ。然ルニ余ハ寧ロ夏季ニ頻發シ、秋季ニハ却ツテ症例數ノ少キコトヲ知レリ。

### (4) 結節性紅斑

本症ハ多型滲出性紅斑ト同ジク、一種ノ瘴氣性傳染病ナラント想像セラル、モノニシテ、春秋二季殊ニ5、6月頃ニ多シトセラレ。

月次	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	合計
症例數	6	6	8	10	11	16	6	2	4	1	5	3	78
百分率	7.692	7.692	10.256	12.820	14.102	20.512	7.692	2.564	5.128	1.282	6.410	3.846	

即チ6月ニ最高率(20.512%)ヲ示シ、10月ニ最低率(1.282%)ヲ示ス。四季別ニハ春夏冬秋ノ順ナリ。

Comby ニ依レバ、本症ハ3月及ビ6月ニ殊ニ多ク、其ノ後次第ニ症例數ヲ減ジ、冬季ニ至リ再ビ増スト。尙10月ニハ最少ナリトセラレ。而シテ余モ亦明カニ之ニ一致スル結果ヲ得タリ。

## C. 傳染性皮膚症

### (1) 丹毒

本症ハ連鎖狀球菌性皮膚症ノ一ナルコト周ク知ラル、所ナリ。

月次	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	合計
症例數	15	15	14	12	18	18	12	16	7	5	17	5	154
百分率	9.735	9.735	9.086	7.788	11.682	11.682	7.788	10.384	4.543	3.245	11.033	3.245	

即チ5, 6兩月ニ最高率(11.682%)ヲ示シ, 10, 12兩月ニ最低率(3.245%)ヲ示ス。四季別ニハ夏春冬秋ノ順ナリ。

抑々本症ハ, Strasser u. Heglerニ依リ溫暖季ニ於ケルヨリモ寒冷季ニ比較的多シトセラレタルモ, Ernstハ6月ヨリ8月ニ亙リ本病症數ノ甚ダシキ増加ヲ認メタリ。而シテ余モ亦夏季ニ症例數ノ多キコトヲ知レリ。

### (2) 白色葡萄狀球菌性膿痂疹

本症ハ水疱形成ヲ主徴トシ, 急性ニ經過スル白色葡萄狀球菌性皮膚症ナリ。而シテ毎年溫暖ノ候ニ至レバ小兒間ニ流行シ, 特ニ夏季即チ7, 8兩月ニ於テ著シク蔓延スルモノニシテ, 秋冷ノ候ニ至レバ漸ク減少シ, 11, 12月ノ頃ニ及ベバ, 殆ンド影ヲ潜ムルモノナリ。

月次	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	合計
症例數	6	6	8	7	14	13	43	126	79	16	11	7	336
百分率	1.782	1.782	2.576	2.079	4.158	3.861	12.711	37.422	23.463	4.752	3.267	2.079	

即チ8月ニ最高率(37.422%)ヲ示シ, 1, 2兩月ニ最低率(1.782%)ヲ示ス。四季別ニハ夏季ニ斷然多ク總數ノ過半ヲ占メ, 秋之ニ次ギ, 更ニ春冬ノ順ナリ。之ニ依リ余ノ統計ノ結果ハ略々前記ノ事實ニ一致スルヲ見タリ。

### (3) 連鎖狀球菌性膿痂疹

本症ハ連鎖狀球菌性皮膚症ノ一ニシテ, 急性ニ經過スルモノナリ。而シテ四季常ニ散發シ, 又屢々濕疹ニ併發スルモノトセラル。

月次	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	合計
症例數	69	50	48	60	81	77	81	74	97	102	93	69	901
百分率	7.590	5.500	5.280	6.600	8.910	8.470	8.910	8.140	10.670	11.220	10.230	7.590	

即チ10月ニ最高率(11.220%)ヲ示シ, 3月ニ最低率(5.280%)ヲ示ス。四季別ニハ秋夏春冬ノ順ナリ。

### (4) ポックハルト氏膿痂疹

本症ハ毒力強キ黄色葡萄狀球菌ニ因リ起ルコト多ク, 屢々痒疹性皮膚症(痒疹, 疥癬, 慢

性濕疹ノ如キ)ニ續發スルモノトセラレ。

月次	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	合計
症例數	8	2	0	2	3	0	3	6	8	6	11	6	55
百分率	14.544	3.636	0	3.636	5.454	0	5.454	10.908	14.544	10.908	19.998	10.908	

即チ11月ニ最高率(19.998%)ヲ示シ、3、6兩月ニ最低率(零)ヲ示ス。四季別ニハ秋ニ最多ニシテ總數ノ半ニ近ク、次イデ冬夏春ノ順ナリ。

### (5) 尋常性瘡癩

本症ハ皮脂ノ分泌旺盛ナルコトニ因リ起リ、細菌殊ニ葡萄狀球菌ノ附著繁殖ハ瘡癩形成ヲ幫助シ、尙消化器障礙、便秘等モ本症ノ發生ニ與ツテカアリト思ハル。

月次	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	合計
症例數	83	72	101	115	124	134	105	107	100	109	95	53	1198
百分率	6.889	5.976	8.383	9.545	10.292	11.122	8.715	8.881	8.300	9.047	7.885	4.399	

即チ6月ニ最高率(11.122%)ヲ示シ、5月之ニ次ギ(10.292%)、12月ニ最低率(4.399%)ヲ示ス。四季別ニハ夏春秋冬ノ順ナリ。

A. Ruete ハ、本症ハ冬季ニ多數ニ觀ラルト言ヒ、Haxthausen ハ、太陽照射ノ強度、並ニ時間ト本症發現ノ頻度トハ、反比例スルモノナリトシ、夏季ニ發現率最少ナリト言ヘリ。而シテ余ハ之ニ全ク反スル結果ヲ得タリ。

### (6) 頭部毛囊炎

本症ハ黃色葡萄狀球菌ニ因リ發生スル皮膚症ノ一ナリ。

月次	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	合計
症例數	37	23	55	34	26	21	38	46	29	14	32	27	382
百分率	9.657	6.003	14.355	8.874	6.786	5.481	9.918	12.006	7.569	3.654	8.352	7.047	

即チ3月ニ最高率(14.355%)ヲ示シ、10月ニ最低率(3.654%)ヲ示ス。四季別ニハ春夏冬秋ノ順ナリ。

### (7) 白癬

本症ハ我が國ニ於テ甚ダ廣ク蔓延セル皮膚疾患ニシテ、白癬菌ニ因リ發生スルモノナリ。即チ8月ニ最高率(12.390%)ヲ示シ、12月ニ最低率(4.012%)ヲ示ス。四季別ニハ夏秋春冬ノ順ナリ。

抑々本症ハ、歐洲ニ在リテハ冬季ニ流行ヲ見ルモノトセラレ、Engelhardt, Schöbel ハ、

月次	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	合計
症例數	133	88	153	126	144	160	170	210	199	126	105	68	1682
百分率	7.847	5.192	9.027	7.434	8.496	9.440	10.030	12.390	11.741	7.434	6.195	4.012	

1月及び5月ニ甚ダ多ク發生スト言ヘリ。然ルニ余ノ統計ニ於テハ、我が國ニ於ケル先輩ノ所見ニ等シク、夏ニ最多、冬ニ最少ニシテ、明カニ之ニ反スルヲ知レリ。

(イ) 頭部白癬

月次	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	合計
症例數	43	31	65	42	47	36	15	40	30	27	26	19	421
百分率	10.191	7.347	15.405	9.954	11.139	8.532	3.555	9.480	7.110	6.399	6.162	4.503	

即チ3月ニ最高率(15.405%)ヲ示シ、5月之ニ次ギ(11.139%)、7月ニ最低率(3.555%)ヲ示ス。四季別ニハ春夏秋冬ノ順ナリ。

(ロ) 頑癬

本症ノ發疹ハ概シテ冬季ニ減退シ、春暖ノ候ヨリ再兆スルモノトセラレ、夏季ニ於テ其ノ症狀最モ増悪スルモノナリ。

月次	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	合計
症例數	57	40	49	57	57	73	87	107	105	68	40	39	779
百分率	7.296	5.120	6.272	7.296	7.296	9.344	11.136	13.696	13.440	8.704	5.120	4.992	

即チ8月ニ最高率(13.696%)ヲ示シ、12月ニ最低率(4.992%)ヲ示ス。四季別ニハ夏秋春冬ノ順ナリ。

(ハ) 汗疱性白癬

本症ハ寒冷ノ候ニ及ベバ症狀一旦消失シ、翌春夏ノ交ニ再發スルモノトセラレ。

月次	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	合計
症例數	6	3	3	13	11	16	31	15	30	19	14	5	166
百分率	3.612	1.806	1.806	7.826	6.622	9.632	18.662	9.030	18.060	11.438	8.428	3.010	

即チ7月ニ最高率(18.662%)ヲ示シ、2、3兩月ニ最低率(1.806%)ヲ示ス。四季別ニハ秋夏春冬ノ順ナリ。

(8) 癩風

本症ハ、Mikrosporon furfur ナル絲狀菌ヨリ發生スルモノニシテ、好シテ發汗、濕潤スル皮膚面ニ發育スルモノナリ。從ツテ本症ハ春夏ニ著シク、秋冬ニ向ヘバ多少褪色シ、若シクハ外觀上一時輕快スルモノナリ。

月次	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	合計
症例數	44	42	60	50	82	89	113	74	64	53	54	34	759
百分率	5.764	5.502	7.860	6.550	10.742	11.659	14.803	9.694	8.384	6.943	7.074	4.454	

即チ7月ニ最高率(14.803%)ヲ示シ、12月ニ最低率(4.454%)ヲ示ス。四季別ニハ夏ニ斷然多ク、次ニ春夏秋冬ノ順ナリ。從ツテ前記ノ事實ニ沿フコトヲ知レリ。

#### (9) ジベル氏薔薇色秕糠疹

本症ハ急性ニ發生シ、多少癢疹ヲ伴フ皮膚症ニシテ、大體ニ於テ白癬ニ屬スベキモノナラント見做サル、モ、未ダ病因不明ナリ。而シテ本症モ一定季節ニ多ク觀ラル、モノナリ。

月次	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	合計
症例數	7	5	7	14	9	7	12	8	14	17	9	7	116
百分率	6.034	4.310	6.034	12.068	7.758	6.034	10.344	6.896	12.068	14.654	7.758	6.034	

即チ10月ニ最高率(14.654%)ヲ示シ、4、9兩月之ニ次ギ(12.068%)、2月ニ最低率(4.310%)ヲ示ス。四季別ニハ秋春夏冬ノ順ナリ。

Lewin, Highman-Rulison, Mc Ewan ハ、本症ハ春秋ニ多ク現ハルト言ヘルガ、余モ亦之ニ等シキ結果ヲ得タリ。

#### (10) 黃菌毛

本症ハ主トシテ、腋毛ニ膠樣粘着性物質ヲ沈著スル疾病ニシテ、著シク發汗シ、且不潔者ニ來ルモノナリ。而シテ近時黃丙丁、宮村氏等ニ依リ其ノ病因ガ細菌學的ニ究明セラレタリ。

月次	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	合計
症例數	8	11	12	7	17	18	27	12	20	12	7	5	156
百分率	5.128	7.051	7.692	4.487	10.897	11.538	17.307	7.692	12.800	7.692	4.487	3.205	

即チ7月ニ最高率(17.307%)ヲ示シ、12月ニ最低率(3.205%)ヲ示ス。四季別ニハ夏ニ斷然多ク、總數ノ半ニ近く、次イデ秋冬ノ順ナリ。即チ本症ノ夏季ニ特ニ多キハ、發汗著シキニ因ルナラント思ハル。

#### (11) 傳染性軟屬腫

本症ハ傳染性上皮腫ノ一ナルガ、其ノ病原體ハ未定ナリ。

月次	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	合計
症例數	8	5	21	19	29	9	17	18	10	8	15	8	167
百分率	4.784	2.990	12.558	11.362	17.342	5.382	10.166	10.764	5.980	4.784	8.970	4.784	

即チ5月ニ最高率(17.342%)ヲ示シ、2月ニ最低率(2.990%)ヲ示ス。四季別ニハ春ニ最多ニシテ、次イデ夏秋冬ノ順ナリ。而シテ其ノ季節的關係ニ於テ、温暖ナル春夏ノ候ニハ傳染スル機會多キ爲メナラント思ハル。

(12) 疣贅

本症ノ眞因ハ未ダ闡明セザルモ、分解セル各種ノ有機物、土壤、塵埃等トノ接觸ニ因リ其ノ發達ヲ促ス如ク思ハル、モノナリ。

月次	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	合計
症例數	28	20	26	24	36	38	40	49	35	30	17	19	362
百分率	7.728	5.520	7.176	6.624	9.936	10.488	11.040	13.524	9.660	8.280	4.692	5.244	

即チ8月ニ最高率(13.524%)ヲ示シ、11月ニ最低率(4.692%)ヲ示ス。四季別ニハ夏春秋冬ノ順ナリ。從ツテ本症ハ温暖ナル候ニ多キコトヲ知レリ。

(1) 青年性扁平疣贅

月次	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	合計
症例數	5	2	8	7	4	8	11	14	10	5	2	4	80
百分率	6.250	2.500	10.000	8.750	5.000	10.000	13.750	17.500	12.500	6.250	2.500	5.000	

即チ8月ニ最高率(17.500%)ヲ示シ、11、2ノ兩月ニ最低率(2.500%)ヲ示ス。四季別ニハ夏春秋冬ノ順ナリ。

(10) 尋常性疣贅

月次	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	合計
症例數	17	15	10	11	19	22	23	34	17	16	10	8	202
百分率	8.415	7.425	4.950	5.445	9.405	10.890	11.385	16.830	8.415	7.920	4.950	3.960	

即チ8月ニ最高率(16.830%)ヲ示シ、12月ニ最低率(3.960%)ヲ示ス。四季別ニハ夏ニ斷然多ク、秋之ニ次ギ、春冬ハ症例數相等シ。

(13) 疥癬

本症ハ疥癬蟲ノ寄生ニ因ル周知ノ皮膚症ニシテ、一定季節ニ特ニ多ク發現スルモノナリ。

月次	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	合計
症例數	116	97	99	87	116	88	67	62	94	139	126	92	1183
百分率	9.744	8.148	8.316	7.308	9.744	7.392	5.628	5.208	7.896	11.676	10.584	7.728	

即チ10月ニ最高率(11.676%)ヲ示シ、11月之ニ次ギ(10.584%)、8月ニ最低率(5.208%)ヲ示ス。四季別ニハ秋冬春夏ノ順ナリ。

Wiltesノ統計ニ依レバ、本症ハ冬季ニ最モ多ク發現スト。而シテ余モ亦秋ヨリ冬ニ亙リ本症例數ノ増加スルヲ見タリ。

#### D. 爾他皮膚症

##### (1) 皮脂漏

本症ハ一種ノ脂腺分泌異常症ニシテ、消化器障礙、便秘等モ與ツテカアリト思ハル。

月次	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	合計
症例數	78	54	80	91	102	80	53	58	54	83	77	72	882
百分率	8.814	6.102	9.040	10.283	11.526	9.040	5.989	6.554	6.102	9.379	8.701	8.136	

即チ5月ニ最高率(11.526%)ヲ示シ、7月ニ最低率(5.989%)ヲ示ス。四季別ニハ春秋冬夏ノ順ナリ。

##### (1) 油性皮脂漏

月次	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	合計
症例數	7	0	0	1	2	2	2	2	1	0	1	1	19
百分率	36.841	0	0	5.263	10.526	10.526	10.526	10.526	5.263	0	5.263	5.263	

即チ1月ニ最高率(36.841%)ヲ示シ、2, 3, 10ノ3ヶ月ニ最低率(零)ヲ示ス。四季別ニハ冬夏春秋ノ順ナリ。

##### (ロ) 乾性皮脂漏

月次	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	合計
症例數	71	54	80	90	100	78	51	56	53	83	76	71	863
百分率	8.165	6.210	9.200	10.350	11.500	8.970	5.865	6.440	6.095	9.545	8.740	8.165	

即チ5月ニ最高率(11.500%)ヲ示シ、7月ニ最低率(5.865%)ヲ示ス。四季別ニハ春秋冬夏



ノ順ナリ。

(2) 腋臭

本症ハ一種ノ發汗異常症ニシテ、分泌セラレタル汗汁ノ分解ニ依リ惡臭ヲ放ツモノナリ。従ツテ當然氣温ト關係深キモノト思ハル。

月次	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	合計
症例數	38	32	56	29	35	36	44	53	37	27	28	32	447
百分率	8.474	7.136	12.488	6.467	7.805	8.028	9.812	11.819	8.251	6.021	6.244	7.136	

即チ3月ニ最高率(12.488%)ヲ示シ、8月之ニ次ギ(11.819%)、10月ニ最低率(6.021%)ヲ示ス。四季別ニハ夏春冬秋ノ順ナリ。而シテ此ノ季節的關係ハ、發汗著シキ候ニ、本症モ亦顯著ト成ル爲メナラント思ハル。

(3) 圓形脫毛症

本症ノ原因ニ關シテハ、最近ニ至リ内分泌腺、並ニ植物神經系障碍ヨリ發生スト説ク著シク増加セリ。而シテ脫毛ハ一定季節ニ特ニ多ク發現スルモノト思ハル。

月次	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	合計
症例數	177	122	160	150	162	132	146	134	111	85	74	81	1534
百分率	11.505	7.930	10.400	9.750	10.530	8.580	9.490	8.710	7.215	5.525	4.810	5.265	

即チ1月ニ最高率(11.505%)ヲ示シ、5月之ニ次ギ(10.530%)、11月ニ最低率(4.810%)ヲ示ス。四季別ニハ春夏冬秋ノ順ナリ。

Hardaway ハ、毎春再發スル本症例ヲ報告セリ。而シテ余モ亦春ニ本症ノ最多ナルコトヲ知レリ。

(4) 尋常性白斑

本症ハ後天性ニ來ル皮膚色素缺乏症ニシテ、其ノ原因ハ植物性神經系ノ障碍ナラント見做サル。然カモ本症ノ發現ト季節トノ間ニハ一定關係アリト思ハル。

月次	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	合計
症例數	87	39	50	65	65	72	87	105	59	37	29	25	720
百分率	12.006	5.382	6.900	8.970	8.970	9.936	12.006	14.490	8.142	5.106	4.002	3.450	

即チ8月ニ最高率(14.490%)ヲ示シ、12月ニ最低率(3.450%)ヲ示ス。四季別ニハ夏季ニ斷然多ク首位ヲ占メ、次イデ春冬秋ノ順ナリ。

橋本喬氏ハ夏季ニ發病セルモノ最モ多ク、春季之ニ次グヲ認メ、是レ夏季日光ノ強烈ナル

刺戟ニ因リ皮膚ヲ障碍セラル、爲メニ因ルナラント考ヘタリ。

### (5) 紅斑性狼瘡

本症ハ一種ノ光線性皮膚疾患ニシテ、其ノ發現ハ氣候、並ニ季節ト一定關係アリト思ハル。且極メテ慢性ニ經過スルモノナリ。

月次	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	合計
症例數	5	5	6	9	3	5	3	4	2	6	0	2	50
百分率	10.000	10.000	12.000	18.000	6.000	10.000	6.000	8.000	4.000	12.000	0	4.000	

即チ4月ニ最高率(18.000%)ヲ示シ、11月ニ最低率(零)ヲ示ス。四季別ニハ春ニ最多、秋ニ最少ニシテ、夏冬ハ其ノ中間ニ位ス。

Freund, Haxthausenニ依レバ、本症ノ發現率ハ夏季ニ甚ダ高クシテ、冬季ニ低シトセラリ。尙 Leslie, Roberts, Freshwaterハ、本症ハ寒冷且濕潤ナル候ニ比較的多シト言ヘリ。然ルニ余ハ前記ノ如ク春ニ最多ニシテ、夏冬ニヨリ差異無キコトヲ知レリ。

## IV 各皮膚疾患ト季節トノ總括的觀察

季節ノ變動ニ因リ各種皮膚疾患ノ發現頻度ニ差異アルハ既ニ前記ノ如クナルガ、之ヲ最大、最小月次ニ總括シテ記載スレバ次ノ如シ。

### A. 月別的觀察

發現率 月次	最 大	最 小
I	尋常性乾癬, 圓形脫毛症	紅色苔癬, 白色葡萄狀球菌性膿痂疹, 多型滲出性紅斑, 痒疹
II	紅色苔癬	白色葡萄狀球菌性膿痂疹, 傳染性軟屬腫, 薔薇色枇糠疹, 帶狀疱疹, 痒疹
III	頭部毛囊炎, 腋臭	ボツクハルト氏膿痂疹, 連鎖狀球菌性膿痂疹
IV	紅斑性狼瘡, 多型滲出性紅斑	無
V	傳染性軟屬腫, 慢性單純性苔癬, 丹毒, 皮脂漏, 濕疹	痒疹
VI	結節性紅斑, 小兒蕁麻疹様苔癬, 多型滲出性紅斑, 紫斑病, 尋常性瘰癧	ボツクハルト氏膿痂疹
VII	汗疱, 黃菌毛, 蕁麻疹, 癩風, 皮膚癢痒症	皮脂漏
VIII	白色葡萄狀球菌性膿痂疹, 痒疹, 尋常性白斑, 疣贅, 白癬	尋常性乾癬, 疥癬
IX	無	無

X	薔薇色粧糠疹, 帶狀疱疹, 疥癬, 連鎖狀球菌性膿痂疹	結節性紅斑, 丹毒, 頭部毛囊炎, 腋臭
XI	ボツクハルト氏膿痂疹	紅斑性狼瘡, 汗疱, 蕁麻疹, 疣贅, 圓形脫毛症, 皮膚癢痒症
XII	無	慢性單純性苔癬, 小兒蕁麻疹様苔癬, 黃菌毛, 丹毒, 尋常性白斑, 白癬, 紫斑病, 尋常性乾癬, 尋常性痤瘡, 癩風, 濕疹

B. 四季別的觀察

1. 春季ニ發現率最大ナルモノ。
  - (1) 春夏秋冬ノ順位ノモノ。  
慢性單純性苔癬, 結節性紅斑, 濕疹, 圓形脫毛症, 頭部毛囊炎。
  - (2) 春夏秋冬ノ順位ノモノ, 傳染性軟屬腫。
  - (3) 春秋冬夏ノ順位ノモノ, 皮脂漏。
  - (4) 春ニ最大, 秋ニ最小, 夏冬ニ相等シキモノ, 紅斑性狼瘡。
2. 春夏二季ニ發現率最大, 次イテ秋, 冬ノ順位ノモノ, 多型滲出性紅斑。
3. 夏季ニ發現率最大ナルモノ。
  - (1) 夏春秋冬ノ順位ノモノ。  
汗疱, 小兒蕁麻疹様苔癬, 癩風, 疣贅, 蕁麻疹, 尋常性痤瘡。
  - (2) 夏秋春冬ノ順位ノモノ  
白色葡萄狀球菌性膿痂疹, 黃菌毛, 白癬, 紫斑病, 帶狀疱疹。
  - (3) 夏春冬秋ノ順位ノモノ。  
尋常性白斑, 丹毒, 腋臭, 皮膚癢痒症。
  - (4) 夏ニ最大, 冬ニ最小, 春秋ニ相等シキモノ, 痒疹。
4. 秋季ニ發現率最大ナルモノ。
  - (1) 秋夏春冬ノ順位ノモノ。  
連鎖狀球菌性膿痂疹, 尋常性乾癬。
  - (2) 秋冬夏春ノ順位ノモノ, ボツクハルト氏膿痂疹。
  - (3) 秋春夏冬ノ順位ノモノ, 薔薇色粧糠疹。
  - (4) 秋冬春夏ノ順位ノモノ, 疥癬。
5. 夏季ニ最小, 他季ニ相等シキモノ, 紅色苔癬。
6. 冬季ニ發現率最大ヲ示スモノハ本統計ニ供シタル皮膚病ニテハ皆無ナリ。但シ降雪期交通難ノ爲メ, 患者ノ出廻少キコトモ勿論顧慮ノ内ニ加ヘザルベカラズ。

V 北陸地方ノ氣候ト皮膚疾患

抑々各種疾病ノ發現ニハ内外ノ要因ガ指摘セラル、ガ、特ニ皮膚ハ外的影響ニ曝露セラレ居ル爲メ、其ノ疾病ノ發現ニハ、殊ニ外因ガ與ツテカアルコトハ推察ニ難カラズ。即チ當該地方ニ於ケル氣温、濕度、降水量、並ニ日光紫外線量、及ビ環境ノ細菌衛生學の狀況ノ皮膚病發生ニ及ボス影響ハ甚ダ大ナリト言フベシ。

我が北陸地方ハ特殊ノ氣象的要素ヲ有スル氣候區ヲ成シ、「アジア」大陸ト日本海トノ兩影

響ヲ享ク。即チ冬季ニ在リテハ、太平洋沿岸ノ雨雪寡キニ反シ、「シベリヤ」方面ヨリ吹き來ル寒冷ナル北西風ノ爲メ風雪殆ンド寧日無ク、本邦ニ於ケル最深雪地帯ヲ成スガ、然カモ他方對馬暖流ノ影響ニ因リ降雪量多キニ比シ、比較的高溫ヲ保チ居ルナリ。又夏季ハ東南季節風ノ配下ニ横ハル爲メ比較的雨モ寡ク、乾燥シ炎熱灼クガ如ク、其ノ氣溫、他ノ低緯度ノ地ニ讓ラザルヲ常トスルナリ。而シテ一般ニ我が北陸地方ハ、本邦中降水量モ最多キ地域ノ一ニシテ、斯ル陰鬱ナル天候ニ因リ奪ハル、日光紫外線量モ亦莫大ナルモノナリ。故ニ我が北陸地方ニ於テハ、他地方ニ比シ、日光紫外線量ノ減少セルコト明カナリ。

次ニ我が金澤地方ニ於ケル氣溫、濕度、降水量（自昭和元年至同5年）5ケ年平均數、金澤測候所調並ニ日光紫外線量（自昭和3年5月10日至同4年5月10日）本學小兒科教室田中豐學士調ヲ掲ゲテ、前記統計的觀察ノ參照ニ資セントス。

月 別	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	平 均
氣 溫 (攝氏度)	2.1	2.0	5.2	10.9	15.9	20.0	25.2	25.9	21.4	15.4	10.1	5.4	13.29
濕 度 (%)	75	77	70	69	73	75	80	78	79	78	75	76	75.42
降水量 (耗)	237.8	194.3	168.8	170.7	108.4	132.4	160.9	180.3	221.4	243.2	289.9	282.8	199.24
紫外線量	0.33	0.57	1.90	3.07	5.82	4.67	7.10	8.63	3.91	2.55	1.90	0.50	3.41

## VI 結 論

1 余ハ大正2年ヨリ昭和7年ニ至ル滿20ケ年間ニ、我が皮膚科泌尿器科外來ヲ訪レタル新來患者總數ニ就キ、主要ト認ムベキ31皮膚疾患ヲ各月別、並ニ四季別ニ亘リ統計的ニ調査シタリ。

2 診斷明瞭ナル新來患者總數ハ43544名ニシテ、之ヲ各月別ニ觀レバ、4月ニ最多ニシテ、12月ニ最少ナリ。四季別ニハ春夏秋冬ノ順位ナルコトヲ知レリ。

3 主要皮膚疾患ノ月別的觀察ニ依リ6月7月及ビ8月ニ發現率最高ナルモノ最多ニシテ、9月及ビ12月ニ發現率最高ナルモノハ認メ得ザリキ。

4 四季別的觀察ニ依リ夏季ニ發現率最高ナルモノ最多ニシテ、次イデ春秋ノ順位ナルコトヲ知レリ。而シテ冬季ニ發現率最高ナルモノハ認メ得ザリキ。

5 北陸地方ノ氣候ハ夏冬兩季ニ特異ニシテ、其ノ特殊ノ氣候の要素ハ、當地方ニ於ケル皮膚疾患發現ニ重大關係アリト思ハル。

## 文 獻

- 1) 石川縣金澤測候所, 自昭和元年至昭和5年金澤氣象5年報.
- 2) 伊藤實, 濕疹ノ原因及治療, 皮膚誌, 第32卷, 第8號, 昭和7年8月.
- 3) 荻野友雄, 蕁麻疹ノ統計的觀察, 十全會雜誌, 第

- 38卷, 第13號, 昭和8年. 4) 改造社, 日本地理大系, 第6卷ノ上, 中部篇, 昭和5年. 5) 上林豊明, 蕁麻疹及蕁麻疹様皮膚炎, 皮尿誌, 第33卷, 第4號, 昭和8年4月. 6) 田中豊, 金澤地方ニ於ケル日光紫外線ニ關スル研究(第1篇), 十全會雜誌, 第38號, 第6號, 昭和8年6月. 7) 土肥夔藏, 皮膚科學, 增訂13版, 昭和3年. 8) 土肥章司, 皮膚及性病學, 增訂再版, 昭和6年. 9) 橋本喬, 白斑ノ病理及治療, 皮尿誌, 第31卷, 第3號, 昭和6年3月. 10) 藤井清二郎, 汗疱様疾患ノ研究, 皮尿誌, 第31卷, 第7號, 昭和6年7月. 11) Buschke u. a. : Der Einfluss der Jahreszeiten auf Verlauf u. Entstehung von Hautkhten. Dermat. Wochenschr. Bd. 95, Nr. 40, 1932. 12) Ernst : Eitrige Entzündungen u. Jahreszeiten. Zentralblatt f. Haut. Bd. 44, Heft. 13, 1933. 13) Fasal : Zur Frage der allergischer Natur der Psoriasis vulgaris. Dermat. Wochenschr. Bd. 96, Nr. 11, 18, März. 1933. 14) Hoede : Umwelt u. Erbllichkeit bei der Entstehung der Schuppenflechte. Würzburger Abhandlungen aus dem Gesamtgebiet der Medizin. Bd. 27, Heft. 7, 1932. 15) J. Jadassohn : Handbuch der Haut- u. Geschlechtskhten Bd. VI/1—XIV/2. 16) Memmesheimer : Der Frühjahrsgipfel des Eczems u. Seine Erklärungsmöglichkeiten. Dermat. Zeitschr. Bd. 57, 1929. 17) Stern : Jahreszeitliche Schwankungen bei Hautkhten. Deutsch. Med. Wochenschr. 8, 1932. 18) Ullmann : Über die Natur der Pityriasis rosea Gibert. Dermat. Wochenschr. Bd. 95, Nr. 32, 1932.